

2021年度

社会福祉法人かがやき神戸
事業方針
分かりやすい版



KAGAYAKI KOBE

法人本部

実践

- ・障がいのある人、家族から学ぶ
- ・障害者権利条約を実践の指針とする
- ・利用者に共感しながら客観的に見れる力をつける
- ・福祉分野だけでなくいろいろな団体と連携する
- ・ミラIGH会議で新しいグループホーム建設を目指す
- ・セラピープロジェクトで芸術活動に力を入れる
- ・当事者と共に成長できる職員集団をめざす
- ・実践を振り返り発展するための実践報告会を検討する

運動

- ・職員ひとりひとりが障害者運動の担い手となる
- ・優生保護法被害問題にとりくむ
- ・憲法を守り障害者権利条約を実現する運動にとりくむ
- ・基本合意文書・骨格提言を実現する運動にとりくむ
- ・被災地支援に引き続きとりくむ

基本方針

理念を大事にし利用者家族の姿から学ぶ
第3期将来構想実現に向けて取り組む
地域になくなくてはならない法人をめざす
人権が守られるよう活動する
民主的な運営を大切に

重点方針

研修に力を入れ支援力、組織力を高める
新しいグループホーム建設に向けて取り組む
かがやき神戸の活動を多くの人に知ってもらおう
将来構想を実現するための資金を作る
コロナであっても発展できる可能性を考える

経営

- ・各会議をオンラインで開催し、コロナの状況下でも参加できるようにする
- ・幹部会を執行部と名称変更する
- ・多様な意見を聞くため経営会議との連携を深める。
- ・支援する会・西・北家族会の意見をしっかりと聞く
- ・勤怠管理システムを導入し管理業務をスムーズにする
- ・委員会・プロジェクトを開催し進捗状況を管理職で共有する
- ・事業所間で支えあえる経営をめざす。

地域

- ・西区
精神障害者の地域拠点をつくるため情報を集める
- ・西区発表会やRicoまつりなどで地域の理解を深める
- ・自治会と関係を深くする
- ・北区
ボランティアセンター「こだま」の再構築
- ・地域ふれあいまつりの成功
- ・ふれあいまつりづくり協議会などの役割をもつ
- ・地域と利用者を結ぶ生産活動を実施する
- ・北たよりを発信する

ピース班

一般作業 (紙すきの準備作業等)	180円
スペシャル作業 (紙すき・カレンダー作業等)	250円
パーキング清掃 1回	500円



- ・送迎を希望する利用者全員に実施する。
- ・作業閑散期に作業提供ができるように新たな委託作業を確保していく。
- ・対人関係に課題のある利用者に対してしっかりと話を聞ける環境を作る。

なないろ(サテライト)

犬用クッキーの販売	150円
おやつ販売 1回	500円
下請け作業 パリ取り・カタログ ギフトの製作	150円



- ・施設外作業や就労移行などを希望する利用者が増えた為、その目標に沿った支援を計画していく。
- ・自主製品の強化として、犬用ジャーキーの製造の委託を受け、ジャーキー開発に取り組む。

なでしこ工房

厨房作業 (弁当作り作業)	B型 850円 400円
焼き菓子作業 (クッキー・ケーキ作り作業)	400円



- ・販路拡大に力を入れながら売り上げを回復させ、さらに増加させていく。
- ・シフトに入れる利用者を増やす。
- ・衛生管理を徹底した環境を作り、維持できるようにしていく(厨房作業・焼き菓子作業)。

施設外作業(コブ有機内)

野菜小分け作業 (野菜の検品・袋詰め作業)	B型 530円・580円 600円
野菜小分け作業 B型リーダー	860円



- ・業務請負先、他事業所との連携を維持していく。
- ・アイス作業が終了した為、野菜作業が多忙な場合は金曜日に野菜作業を行っていく。
- ・リーダー候補が増えてきたため、採用を検討していく。

複数の作業が選べます。
 週一回の作業から、体調に合わせて利用できます。
 レクリエーション・芸術活動もあります。

れんけい
連携

いっばんしゅうろう
一般就労

I ひとりひとりへの支援について 1. 相談や毎日の関わりの中からおひとりおひとりの希望を聞き取り、その人らしい生活が出来るように支えています。 2. 皆さんが安心して頼み、相談できるような環境を作ります。 3. 皆さんの仕事や生活での困ったことなどをそれぞれの関係機関と連携して支援していきます。 4. ご家族の相談をお聞きしたり、しんどさや悩みを聞く場を作り、ご家族とも連携していきます。 5. なないろと協力して、作業面、生活面での支援をしています。 6. 精神科病院に入院中の方が退院して地域で生活することが出来るように入院中の方の虹の里利用を受け入れていきます。	7. 家にひきこもっている方や地域に居場所がない方にとって、虹の里が地域にでる第一歩の事業所となるように、関係機関とも連携して受け入れをすすめています。虹の里への通所が慣れた方にはご本人の希望に沿って、就労継続支援事業B型の利用などもすすめています。 II 虹の里のプログラムについて 1. 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、プログラム活動をしていきます。 2. ひとりひとりの力を伸ばすことが出来るように、講師の先生と相談したり協力して、プログラム活動を行っています。 3. 就労している方や就労継続支援事業B型などに通所している方の方の休日の居場所として支援をしていきます。	III 啓発活動 1. 地域清掃を定期的にを行うなど、地域で出来る活動をしていきます。 2. 地域からボランティアさんやプログラムの先生に来ていただくことで、交流する機会を持つとともに障がいについての正しい理解が広がるように努めます。 はつちうで 初詣
---	--	--

＜基本方針＞

I. コミュニティカフェ「Rico」の運営

地域の方が気軽に立ち寄り、ほっとできる場、地域交流の場となる喫茶店を目指します。喫茶部門と厨房部門が協力して取り組みます。



II. 給料の保障

喫茶・厨房作業を中心に、売上げがアップするよう工夫します。個別の仕事に合わせた時給の仕組みと、全体の給料の底上げも目指します。

III. 仕事以外の生活も充実

メンバーさん中心の自治会（役員会）を発展させ、全体がよりよくなるよう話し合います。余暇活動や生活を充実していただけるような活動プログラム（特に健康面・フレイル予防）を行います。

ご希望にそった生活が送れるよう、必要に応じて個別の相談や訪問などを行い、他の関係機関も含めて一緒に考えます。



～地域交流・地域貢献を心がけます～

＜今年度の目標＞

①コミュニティカフェ「Rico」(厨房・喫茶)

・感染予防に配慮し、集客を増やせるよう工夫します(特にランチタイム以外)。

・メンバーさんが担当仕事を増やせるよう環境や作業内容をわかりやすく工夫します。

・夕食弁当の注文を増やします。

・乾燥果実やケーキ以外にも商品開発します。

・栄養確保のための給食ランチを提供します。

②軽作業

・安心して取り組める簡単な作業を続けます。

・個別に取り組みやすい作業とシフトを考えます。

・仕事が充実するよう、自主製品を開発します。

・個別に目標を持って軽作業に取り組み、幅広い仕事にチャレンジしやすい工夫をします。

③おやつ販売(雄画病院)・・・休止中

④出張喫茶(垂水病院)・・・休止中

感染状況が落ち着いて再開できるように話し合い、これまで通りメンバーさんが事業所外の仕事にしっかりと取り組めるようにします。

* 相談機会の確保(定期化)

定期的に面談・訪問し、ご希望を確認し、目標に向かっていけるようにします。仕事だけでなく、生活や人付き合いのことなど、一緒に考えます。



メンバーさん中心の自治会やサークル活動を充実!

高齢の方のサポートを考えます

* 自治会・朝礼・ミーティングなど

互いに自分の思いを表現し、他の人の話を聴く交流の機会を大切にします。

* ピアサポート

病気のことを知る・伝える機会(リカバリー)のつどいを持ち、ピアサポーターを担い、退院促進活動に取り組みます。

☆ 職員間の共有を強化

職員がメンバーさんの力になれるよう、よりよい支援を心がけ、しっかりと連携します。また、学ぶ機会をもちます。



2021ねん 2021年 森友療事業計画

せいにしんかびょういんがい せいしんかびょういんがい せいにしんかびょういんがい
精神科病院以外の内科や外科などの病院への付き添い

ふやしませす
を増やします

どようび にちようび すごしかた いっしょ かんがえて
土曜日や日曜日の過ごし方を一緒に考えていきます。

かいもの おでかけ つくりませす こべつ
買い物やお出かけのプログラムを作ります。個別だけでなく

く、グループでも行けるようにしていきます。



にゆいんちゆうかた かぞく いっしょ
入院中の方や家族と一緒に住まれている方を受け入れていきます

《体験型グループホーム》

かた たいけんしゆくはく りよう すす
たくさんの方に体験宿泊の利用を進

めていきます。泊まることでグループ

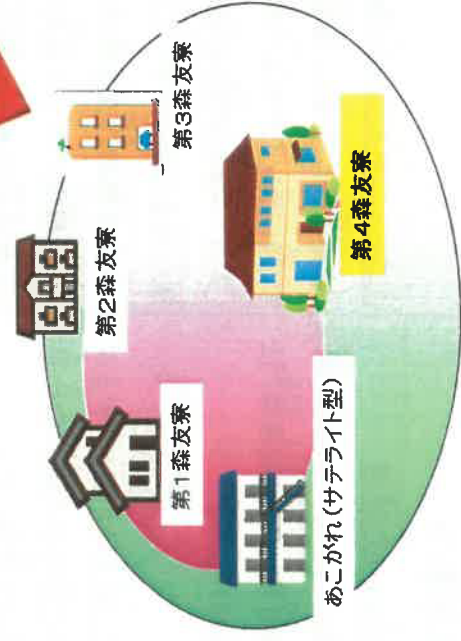
ホームはどんな所か、何をするのか

を知ってもらいます。自立した生活に

向けて練習をします。



ひとり暮らしをした後も生活がずっと
一人暮らしをした後も生活がずっと
に電話相談や訪問をしてサポートしてい
きます。



相談

- ・障がいのある人や家族が、いつでも安心して相談ができる雰囲気を作ります
- ・障がいのある人や家族の権利を守る視点を大切に

にして相談を受けます。

- ・関係者と一緒に、チームを作って支援をします。

職員のスキルアップとチームワーク

- ・小さなことでも報告・連絡・相談を行い、チームワークを高めます。
- ・たにがみセンターと一緒に研修を行います。
- ・制度やサービスについて全員で勉強します。

窓口開設時間

平日	9時から19時
土日祝	9時から17時

にしろくろ障害者相談支援センター

※2021年4月～名称変更

2021年度事業計画

ピアカウンセリング

(対象：精神障がいのある人)
同じ障がいや生活のしづらさのある人たちが、悩みや気持ちを分かち合います。

- ①グループピアカウンセリング 第3日曜日
- ③家族のつどい 奇数月 第1日曜日

西区自立支援協議会

- 「安心して生活できる地域を目指して」
- ・障がいのある人や家族の、相談から出てきた困ったことや問題を発信していきます
 - ・たくさんの方が障害について知る機会を増やしていきます
 - ・障がいのある人もない人も、安心して生活できる地域になるように必要なサービスや仕組みを提案していきます

ねんど 2021年度 たにがみ障害者相談支援センター 事業計画 (2021年4月より名称変更になりました)

I 相談 ・障がいのある当事者や家族の立場にたち、その人らしい生活が実現することをめざして相談支援をおこないます。 ・担当職員が一人で抱え込まないように、全員で共有、相談、検討をしっかりとおこないます。 ・北区内にある3つの支援センターの協力関係を強くし、よりよい相談支援ができるように、定期的な連絡会等をおこないます。	Ⅲ ピアカウンセリング：「精神家族のつどい」 精神障害のある方の家族が集まり、気持ちのわちあひ、ささえあひの場をつくりまします。(月1回・第2水曜日) Ⅳ 「北区自立支援協議会」と、地域支援機能強化事業 ・北区を障がいのある人が住みやすい地域にするための活動をします。地域住民の方にむけて啓発活動をしたり、支援者のスキルアップのための研修や、事業所間の連携をよりよくするための連絡会等をおこないます。
Ⅱ 職員のチーム力向上と支援のスキルアップ ・月1回の「たにがみ会議」と、月3回の「たにがみミーティング」をおこない、様々な情報共有や業務の進捗状況の確認、課題について話し合いをします。 ・各職員の経験や課題にあわせて研修に積極的に参加します。にし支援センターと合同での事例検討や勉強会もおこないます。	・今の福祉制度では解決できない問題について、「地域課題」として記録をします。そのことを、自立支援協議会の活動の中で発信したり、神戸市への提案として伝えまします。



2021年度 発達障害者北部相談窓口 事業計画

「発達障がい」とは

生まれつき脳の働きに特徴があります。そのため得意なことと苦手なことの差が大きく「できること」「できないこと」に凸凹があります。生活や仕事、人間関係で困ることがあります。親や本人の努力不足ではなく周囲が理解することですぐしやすくなります。

ご利用できる方 ※診断の有無は問いません

神戸市北区内にお住まいの 15歳以上(中学卒業後)の発達障がいの方とそのご家族、支援者、企業の方など

つながり

・区役所・ひきこもり支援室などの行政機関、しごとサポート・就労移行支援事業所などの就労機関、病院・学校・企業など顔の見える関係を意識し、つながりを深めます。

・関係機関への訪問活動や外部の会議へ積極的に参加し、情報交換をおこないます。

啓発

・発達障がいの正しい理解や支援の方法を広めるため、疑似体験を中心とした研修を支援者、実習生、地域の方に向けて行います。より多くの人に理解してもらうため、訪問活動も行います。

・支援者のネットワークづくりとスキルアップのため、「発達障がいの理解と特性支援を考える会」をひらきます。

・発達障がいのある方の希望の実現と、ステップアップできるような支援をめざします。

・相談者から信頼してもらえる相談員をめざします。

・相談者が安心して話ができるよう、特性に応じた環境づくりをめざします。

【みえる工夫】

・耳で聞いて理解することが苦手な方へ

⇒話しの内容がわかりやすいよう紙に図やイラストを書き、イメージしやすいように動画や本を使います。

【ためす工夫】

・想像することが苦手な方へ

⇒片付けや話し方など、ご本人が困っていることを、面談の中で実際に試したり練習したりします。

【ととのえる工夫】

・新しいことや変化が苦手、音や光、臭いが気になる方へ

⇒音や相談室の温度、座る位置などへの配慮、また、コロナ対策を充実させ安心して面談できる環境をととのえます。

⇒面談できない時は電話相談をします。

ねんど ちいき かつどう しえん 2021年度 地域活動支援センター ひだまり 事業計画

I 個別の支援をしっかりととこなします。 ・個別面談の時間をとり、一人ひとりの希望や目標等について、丁寧にうかがいます。 ・安心して相談ができるように、職員は利用者との信頼関係づくりを大切にします。 ・職員は職員会議で話し合ったり、研修に行ったりして、よりよい相談活動ができるようスキルアップをめざします。(プログラム会議月1回、ひだまり会議月1回) ・職員同士での報告や情報交換、支援方針の検討等をしっかりととこなします。 ・家族、福祉、就労、行政、医療など関係機関と連携した支援を行います。  ひだまりは居場所、他の人との交流、地域や社会に出る第一歩として利用できます！	II プログラム活動 ・利用者と一緒にプログラムについて話し合いを決めたり、プログラム当日の役割等を分担して、利用者が主体的に取り組めるような支援をします。 ・法人内のケパピーPJ といっしょに、芸術に特化した支援を検討していきます。 ・個別ニーズからプログラムの内容を検討します。(就労プログラムなど) ・一つ一つのプログラムの目的や内容について、しっかりと話し合い、プログラムをより充実させていきます。 ・話し合いのプログラムについて、目的、内容やすすめ方を検討して、基本となるマニュアル作りをします。	III 地域交流・啓発活動 ・地域のイベント等に参加し、交流をします。 ・ボランティアや実習生を積極的に受け入れます。 ・地域ボランティア活動に取り組みます。(周辺のクリーン作戦等)  毎年、地域ふれあいまつりやひようごころの医療センターで行われるアイあいまつりに参加しています IV ひだまりのつどい ・発達障害者居場所づくり事業(毎月第4金曜日に実施) ・発達障害者北部相談窓口の職員といっしょに打ち合わせを行い、内容、支援を考えます。 ・参加者のニーズを聞き、支援につなげます。 ・他のつどいを見学する等して学び支援に活かします。
--	---	--

○事業として、力をいれたいこと

◎実践

- ・収入の確保、給料の底上げ
- ・多くの職員に研修に行ってもらい、研修報告の場を設けたり、学んだことを実践に取り入れていく
- ・高齢・重度の利用者の過ごし方を考える

えていく

重点取り組み

◎経営

- ・B型の利用者を増やしていく
- ・コロナの状況をみながら休日の開所を考える

◎運動

- ・旧優生保護法裁判や65歳問題などの学習会等に参加していく
- ・会議等で情勢の報告を行う

◎地域

- ・コロナ禍でも地域に出ていけるものを考える（宅配弁当の拡大や地域清掃など）

ぐりいと 2021年度事業計画 (わかりやすい版)

◎実践

- ・オンライン配信など、コロナ禍での公演活動を考える
- ・研修に積極的に参加していく
- ・クラウンの 프로모ーションをすすめる
- ・15周年のクラウン公演を行う

◎運動

- ・優生裁判の傍聴や65歳問題などの学習会に参加していく
- ・署名活動や賛助会員拡大に取り組む
- ・星に語りてと夜明け前の映画普及に努める

重点取り組み

◎経営

- ・利用者を増やしていく
- ・休日開所をしていく

◎地域

- ・地域の方と関われる取り組みを考える
(谷上地域へのクラウンの啓発活動を行う)

2021年度 のびのびホーム事業計画 分かりやすい版

自分らしく、安心して過ごせるホームをめざします。

基本方針

- ①利用者のニーズに沿った個別支援を行います。
- ②一人ひとりの生活や余暇を豊かに過ごせるように一緒に考えます。
- ③毎日が健康的に過ごせるように、検温などの健康管理や通院同行を行います。
- ④職員は研修や学習を通じて専門性を高めつつ、関係各所と連携を取りながら支援を行います。



グループホームの重点的な取り組み

- ・感染症や災害の対策をさらに強化します。
- ・グループホームの環境整備をします。
- ・新グループホーム建設を見据えた支援を行います。
- ・職員の人材確保と育成に取り組めます。



具体的には

- ・マニュアル作りや見直し、定期的な避難訓練で危機意識を高めます。
- ・生活しやすいように、定期的な清掃を実施します。
- ・生活しやすいように、古い設備を入れ替えます。
- ・高齢の利用者の方への支援を考えます。
- ・通院などの付き添いを計画的に行います。
- ・研修や学習会の参加・職員に対するストレスケア
- ・事業所の枠を超えて職員同士の連携に努めます。

2021年度 ショートステイとまり木事業計画

利用する日が、楽しくもあり待ち遠しくもなるようなショートステイを目指します。

1. 基本支援

- ①利用者のちよっと〇〇〇〇したい時に…。
- ②家族のちよっと〇〇〇〇したい時に…。
- ③緊急で〇〇〇〇が必要な時に…。

《食事提供》

多機能型つくしんぼと協力しながら、その人に合った食事提供を行います。また、季節感を持った食事でも定期的に取り入れていきます。

《必要な支援の実施》

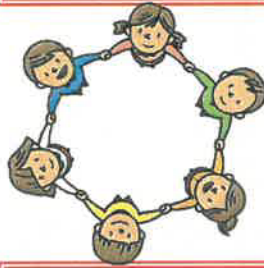
入浴介助や排せつ介助は利用者家族と相談しながら取り組みます。また、より安全な介助を行うために、二人介助を基本とし、より安全な介助を心掛けます。

《過ごしやすい環境を》

時には、家と同じような環境を。またある時には、特別な日という環境を。共有スペースと個人スペースを上手に利用してもらえようように心掛けています。

2. 職員間の連携について

日々、違う方々が利用するショートステイにおいて、職員間の連携と情報共有がととても重要です。①利用者の体調の事。②介助方法について。③服薬の事。④食事の事。⑤持ち物の事。⑥レスパイト等を視野に入れた家族の体調の事等々。これらの事を職員間で情報共有できる仕組みを考えます。



3. 学ぶ機会を作る

2021年7月で4を迎えとまり木においては、これまで目の前の実践(支援方法・介助方法など)や仕組みづくりに取り組んできたが、とまり木の今後を見据えた学びが必要な時期に来ています。そのため、①他事業所実践から学ぶ(見学等)。②実践の幅と深さを追求する(研修参加等)。



4. フェイスシートの作成と丁寧な支援の見直し

年に1回の個別面談を行い、フェイスシートの見直し、それに伴う支援の見直しを行い、とまり木での生活がより安全で安心して過ごせる場所となるように心がけます。



6. 季節に応じた、イベントの開催

季節を感じる事ができるイベント定期的に実施します。仲間、職員がともに準備から関わられる内容を考えていきます。

5. 感染症対策の徹底

新型コロナウイルスをはじめ、様々な感染症が蔓延しないよう対策を講じます。①手洗いの徹底②マスクの着用③定期的な換気④館内消毒などの対策を徹底するとともに、三密を避けるような工夫をします。



目標に向かってみんながんばるー！！